

## 会員増強と新地域支援事業への参画で活性化へつなげよう

～市町村老人クラブ連合会役員等研修会を開催しました～

去る1月13日、徳島市のザ・グランドパレスにおいて、第4回目となる「市町村老人クラブ連合会役員等」が開催され、県下全市町村から役員等72名が参加、来賓として飯泉嘉門徳島県知事をはじめ、吉田県保健福祉部長、渡邊県長寿いきがい課長、廣瀬いきがい・とくしま回帰担当室長にご臨席いただきました。



吉尾副会長の開会のことばに続き、伊丹県老連会長から、会員増強運動と新地域支援事業という2つの大きな課題にしっかりと対応し、老人クラブの活性化につなげてほしいと挨拶がありました。



続いて、来賓を代表して、飯泉嘉門徳島県知事からは、丁酉（ひのととり）の年にあたり大きな変革が訪れるが、県として諸課題に果敢に挑戦し、また老人クラブの皆様方には健康寿命を延ばし、生涯現役で大いに活躍してほしいと励ましのことばをいただきました。

続いて事務局から、今回の研修会のテーマでもある「会員増強運動」及び「新地域支援事業」について基調説明を行い、会員増強運動については減少傾向に歯止めはかかっているが、一方で大幅な会員増を達成した老連やクラブもあり、参考にしながら引き続き、それぞれの地域の実情に応じた地道な取り組みをお願いしたいとしました。また、新地域支援事業（新しい日常生活支援総合事業）については、県内多くの市町村が本年4月以降に事業を実施するとしており準備段階にある。老人クラブが日常的に行う友愛訪問活動やサロン、健康づくりの取組が事業に該当すると考えられ、事業への参画により老人クラブの活性化、会員増にもつながると説明しました。

その後、事例発表に入り、会員増強運動で昨年度96名の会員増を達成した美馬市老人クラブ連合会の三宅会長から、美馬市における取り組みの発表があり、効果をあげたポイントとして自治会との連携や役員による地道な勧誘、女性の活躍、活動内容に合わせた勧誘、近隣クラブとの連携など様々なキーワードが盛り込まれていました。

続いて、新地域支援事業に関連し、再度老人クラブ活動との関わりを研修すべく、本事業の先進地である鳴門市の基幹型地域包括支援センターの乾センター長にご講演いた

だきました。講演では今後、社会保障制度を持続するためには住民主体による助け合いの活動が不可欠であり、高齢者自身もその担い手として関わっていくことが求められている。そうした中で老人クラブが果たす役割は大きいとされ、鳴門市では新地域支援事業として、「いきいき百歳体操」を柱としたサロンの取り組みに、老人クラブも多数参加、概ね盛況であることなどが報告されました。

また、本年3月に改正される改正道路交通法の内容について、県警察本部運転免許課の高井次長から、75歳以上の運転者に対しては、更新時や特定の違反行為の際に認知機能検査を実施することなど改正のポイントについて説明がありました。

すべての議題を終え、予定の時間を少し超過したものの、みなさん最後まで熱心に聞き入っていました。最後に細井副会長の閉会のことばで研修会を終了しました。



午後からは、恒例となった「新年互礼会」を実施、午前の研修会に引き続きご参加いただいた吉田保健福祉部長による乾杯の発声で始まりました。互礼会には渡邊県長寿いきがい課長、廣瀬いきがい・とくしま回帰担当室長も引き続き参加、役員らと交流を深められました。カラオケなどで大いに盛り上がった会は、最後に坂東副会長による万歳三唱をもって終了しました。